

子育て支援セの現状は

利用多く土日開所を検討



質問 子育て支援センターは、子育て家族の就学前の居場所として重要視すべきと考えるが、現状はどうか。

答弁 子育て中の親子の交流、育児に関する相談、地域の子育て関連情報の提供、子育てに関する講習などを行



大和田 加代子

(碧い風)

なっている。子ども・子育て支援事業計画の計画値を超える利用実績となっており、利用のニーズは高い。子育て支援センターたかたや、レインボーハウスでの土日開所も検討している。

質問 母親の休養、リフレッシュのための企画は。

答弁 保護者からの意見を取り入れて企画している。ここ数年はコロナ禍で集まること難しかったが、今後は多く企画していきたい。

給食費無償化は

質問 学校給食費の無償化と財源はどうか。

答弁 前市長も公約に掲げ

予算案作成の判断は

必要性を感じて提案した



質問 市長戦でも施政方針でも、物価高やコロナ対策など市民生活に寄り添う姿勢が感じられなかった。市長の気持ちはどうか。

持ちはどうか。答弁 現段階では市の保健や福祉関係の施策に必ずしも精通していない。今までの

中央省庁と違って、市役所は市民に一番近い行政機関と認識している。市長に就任した以上は全力で市民の生活、幸福、健康について、これまでの歴代市長にも負けない態度で市政を運営する。

質問 今回の予算案は前市長の査定に基づくものなのか。

答弁 それは承知していな



子育て支援センターにこここ(広田保育園併設)

いて、大学教授など外部への委託も含め職員の負担にならないような方法を検討してはどうか。

事務事業評価は

質問 事務事業の評価について。答弁 現在の本市の貸与型奨学金は、奨学資金貸付基金を原資とし、その財源は各方面からの寄付金の積立金や、過去の奨学生からの返還金を充てており、本年1月末現在の残高は、約3800万円と

質問 事務事業の評価について。答弁 前市長の公約について「パラマキ」と表現したのは一回だけ。選挙のタイミングで出しているものでそういう表現をした。後で国語辞典で調べたが必ずしも悪い意味だけではない。一方で、市民の生活が非常に苦しい。恒久的にできるかは財源の問題もあるが、少なくとも今深刻な生活

を守る施策は重要と判断している。戸羽前市長が掲げる施策を批判したことは一度もない。



ふるさと納税のHP

とし、新たな商品開発支援により取り組みを進める。

国保税の引き下げは

質問 市民生活応援に緊急の国保税引き下げは。答弁 令和5年度の国保税引き下げのため、6月補正に向け検討している。

質問 会場産品の販路拡大に向け、ふるさと納税の目標と戦略は。答弁 当面は10億円を目標

ふるさと納税は

ふるさと納税は重要な施策として、ふるさと納税の目標と戦略は。答弁 当面は10億円を目標

どうするフレイル対策

介護予防教室などで周知



質問 加齢により筋力や心身の活力が低下し、介護が必要となりやすい、健康と要介護の間の虚弱状態のことをいうフレイルに対する市民の認識をどのようにつけているのか。

答弁 健康寿命を延ばすためにはフレイルにならないこ

質問 フレイル対策への周知と啓発をどのように展開しているのか。また、施策展開の課題は何か。

答弁 フレイルは早めに対応することが重要と認識している。このため、体操や脳トレなどの活動、口腔ケアや栄養に関する講話、筋力アップや認知機能の向上など、フレイル予防にも効果が見込まれる介護予防プログラムを実施することにより、普及啓発に努めている。

脱炭素化の課題は

質問 脱炭素化社会の実現とエネルギーシフトを目的とした取り組みの課題は。答弁 これまでの取り組みを通じて、脱炭素化社会の実現に向けた機運の醸成について、一定程度進めることができている。課題は、環境省が公表している自治体排出量カルテに基づき、市内のCO2総排出量を人口で割った年間



市が実施している介護予防教室



畠山 恵美子

(翔成)

質問 加齢により筋力や心身の活力が低下し、介護が必要となりやすい、健康と要介護の間の虚弱状態のことをいうフレイルに対する市民の認識をどのようにつけているのか。

答弁 健康寿命を延ばすためにはフレイルにならないこ

の1人当たり排出量が復興需要の収束に伴い、震災前の水準に次第に下がつつあるものの、令和元年度現在で6.3トンであり、平成22年度の6.18トンを上回っていることだ。今後、市を挙げて脱炭素社会の実現に向けた機運をさらに高めていく必要があると考えている。